

宮腰靖之 研究主幹

「日本水産学会 平成 25 年度水産学技術賞」の受賞

ト部浩一・實吉隼人・下田和孝

さけます・内水面水産試験場 さけます資源部の宮腰靖之研究主幹が、今年 3 月に函館で開催された平成 25 年度日本水産学会春季大会において、水産学技術賞を受賞されました。

これまで宮腰研究主幹は、サクラマスをはじめとする本道のサケマス資源の増殖と保全に関する研究に精力的に取り組んでこられました。サクラマスの放流効果評価の研究では膨大な野外データに基づく精緻な統計分析を行い、また、野生サケに関する研究では、全道各地を流れる 300 以上の河川において自然再生産状況の調査を行うなど、これまで課題とされながらもその実施は非常に困難とされてきた研究テーマに積極的に取り組み、数々の貴重な知見を報告されてきました。それらの成果は多くの国内外の雑誌に掲載されるとともに、高く評価されてきました。この度、これらの一連の研究成果に対し、日本水産学会よりその功績が認められ受賞となりました。その受賞内容は下記のとおりです。

【受賞者】 さけます・内水面水産試験場

さけます資源部 研究主幹 宮腰靖之

【受賞業績題目】

サケマス資源の増殖保全技術の向上

【水産学技術賞】

日本水産学会における賞には、日本水産学会賞、日本水産学会功績賞、水産学進歩賞、水産学奨励賞および水産学技術賞の 5 種あり、水産学技術賞は「技術上著しい業績を上げ、水産学ならびに水産業の発展に貢献した者に授与する」とされています。

【受賞理由】

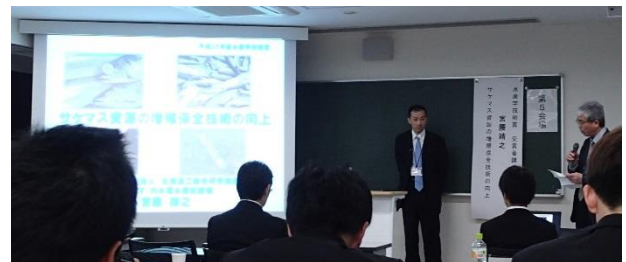
宮腰氏はシロザケやサクラマス資源の増殖保全技術の発展の為に、増殖効果を定量的に評価する方法を開発した。まず、サクラマスについては放流サイズと回帰率の関係を調査し、30g 以上のスモルトの放流効果が高いことなど、費用対効果も含め総合的に評価した。また、遊漁船や自動車を抽出単位とした定量的調査により、遊漁による影響も無視できないことを初めて明らかにした。次にシロザケについては北海道の 85 の非放流河川で、種

苗放流を実施している河川と合わせると 206 の河川で自然産卵を確認した。このように、宮腰氏の研究はサケマス資源の保全や増殖技術の発展に不可欠であり、国際的にも評価されており、水産学技術賞にふさわしいものと思われる。

受賞記念講演では時間の制約もあり、個々の研究について詳細な説明は行われませんでした。全ての研究成果が非常に膨大な野外調査に基づくものであることがひしひしと伝わってくる内容でした。

なお、受賞内容の詳細および受賞講演の概要につきましては、水産学会誌 80 巻第 3 号 321 ページにも掲載されています。是非、そちらも併せてご覧ください (https://www.jstage.jst.go.jp/article/suisan/80/3/80_314/pdf)。

水産学会から戻ってしばらく経った 4 月 28 日、さけます・内水面水産試験場の会議室で記念講演会を開催しました。講演会では学会での発表内容に加えて、これまで現場で進めてきたサクラマスやサケについての試験研究の成果が多数盛り込まれ、スライドには懐かしい方々や現役職員の若い頃の姿がありました。



写真上：渡部水産学会長から受賞内容について紹介

写真下：さけます・内水面水産試験場での講演の様子

(さけます資源部 うらべ ひろかず・しもだ かずたか
道東支場 さねよし はやと)